



元気いっぱい！苅っポー



No. 228 令和5年3月20日

夢と希望に向かって
努力する子ども

友達と仲良く
助け合う子ども

約束や決まりを守り
あいさつする子ども



校長室はなぜあるのか？



コロナ禍の3年間、実にさまざまな場面で校長としての決断を迫られたことを思い出します。特に、6年生にとっての大きな行事である修学旅行の実施の有無については大変悩みました。

（この3年間、目的地の変更等はありませんでしたが、全部実施できました）

中止にするのが正しいとか、実施するのが正しいとかいう話ではなく、そもそも誰が決めることかという認識を私自身が自覚していたかとふり返ります。

このことは、修学旅行に限らず、学校現場の多くの教育活動にいえることです。学校経営を託されている責任が私にはあります。教育課程の編成は校長の仕事の最も大きなことであり、学校規模や実施時期などがそれぞれ異なるので、校長が判断すべきであると私は考えます。

「校長室はなぜあるのか」

私の答えは「考え、悩み、判断し、決定する」ために必要だからです。校長室で独りで考えることは、大切な仕事です。さまざまな場面・場合を想定し、目的、効果、リスクなどを踏まえて判断し、決定する。まさに孤独であり、同時に醍醐味であると思います。

しかし、私自身は孤独だとはそれほど感じていません。なぜならば、学校には教頭がいます。主幹教諭（教務主任）をはじめとした多くの教諭（同僚）がいます。町内には、同じ思いをしている校長がいます。町教育委員会にも相談はできます。

大事なことは、まずは、**自分の考えをもつ**こと。その上で、さまざまな意見を聞いてみることです。そして、最後には責任をもって決定していきます。つらくもあり、楽しくもあります。

私は、常に自分自身に言い聞かせています。

「自分の考えをもたずして周りに流されるな。リスクなき決定はない。
あきらめずに踏ん張ろう、すべては子どもたちのために。」

